



④子どもも家族と一緒にウォーキング大会に元気よく参加 ⑤たっぷりと太陽を浴びながら、元気に走り回る倉吉東保育園の子どもたち。表情もイキイキしている



は何をしたら良いのか。じっくり考えていかなければならない。地方から発信される歩育の実践と未来

このような事態をいち早く憂い、様々な取り組みを始めている地域がある。

たとえば、今回『イヤールラウンドコース』と『第8回日本海未来ウォーク』を取材するため本誌が訪れた鳥取県の倉吉市はそのひとつだ。

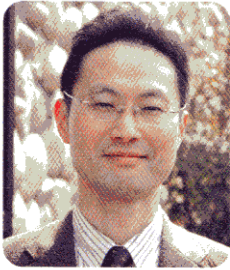
倉吉市のウォーキング協会の母体は『NPO法人・未来』。

地元の学校でPTAの会長等を務めた岸田寛昭さんが理事長となり「子どもと地域の未来を創造」をテーマに多種多様な試みを行っている。

たとえば『未来』の副理事長・松田隆さんは、本業が小児科医。特に子どもの「足」を守ることに関心が高く、このテーマでシンポジウムを開く等の活動を行っている。



NPO法人「未来」理事長 岸田寛昭さん



NPO法人「未来」副理事長で「まつだ小児科医院」院長 松田隆さん



倉吉東保育園長 大橋和久さん

「外反母趾の子どもや、土踏まずのほとんどない子が非常に増えている。特に子どものうちにちゃんと歩かないと、きれいな足のアーチは形成されないのです」と松田氏は警鐘を鳴らす。

また倉吉には、10年以上前から独自に歩育に取り組んでいる保育園もある。倉吉東保育園の大橋和久園長は「歩くことはすべての基本」というポリシーの下に、1ヶ月に2度「ちびっこ探検隊」と名付けた野外活動を続ける。また同保育園では年に一度足型を取るというユニークな試みもしており、歩育の結果、1年で子どもたちの足にアーチができたという実証にもなっている。

取材中、保育園の近くにある河川敷の草の上を自由に歩き、走り回る子どもたちの幸福そうな笑顔が印象的だった。これからも様々な地方の積極的な「歩育」への取り組みに注目し、応援していきたい。

子どもたちと一緒に歩こう!!

各地で催されるウォーキング大会には、親子連れで参加する人が年々増えており、それをきっかけに「歩くことが好きになる」子どもたちも多い。また、日本ウォーキング協会では、子どもパスポートを発行している。15歳までの子どもたちのウォーキングに世界共通の表彰と記録認定が行われ、子どもの歩く楽しみを広げている。



協会が認定する大会への参加回数や距離に応じて、バッジや表彰状が贈られる